

## 埼玉県にもいる 特別天然記念物ニホンカモシカ

奥村みほ子

ニホンカモシカ（以下、カモシカ）は、日本固有種で大型の哺乳類です。大型といってもニホンジカ（以下、シカ）より小さく成獣の体重は 30 ～ 50 kg、地面から肩の高さ（肩高）は 70 ～ 90 cm です。ぱっと見はシカと似ていますが、ウシの仲間で、雄雌共に角があります。この角はシカのように枝分かれたり生え変わることはありません。普段は山の森林に生息し、草食性です。



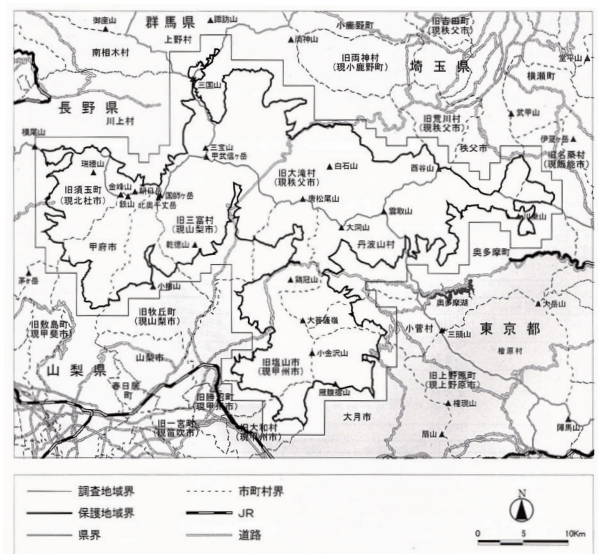
写真、ニホンカモシカのはく製

カモシカはかつて個体数が減少し、その生息が危ぶまれたことから保護対象でした。1934 年に天然記念物に、1955 年には特別天然記念物に指定されましたが、餌の多い若い植林地の増加などにより個体数を増やし、林業被害が目立つようになりました。その後、1979 年に、環境庁（現環境省）、林野庁、文化庁による 3 庁合意に基づき、食害対策と保護の両立が図られることになりました。文化庁が管轄する文化財行政では、「カモシカ保護地域」を設定し、保護地域を中心に保護を目的とした施策が進められてきました。カモシカが生息する地域に全国で 15 個の保護地域を設定し、生息状況の調査や保護及び食害対策事業を行っています。

埼玉県にかかる保護地域は“関東山地カモシカ

保護地域”で、当県と群馬県、東京都、山梨県、長野県の山地にかかる地域です。県内では、秩父市と飯能市にかかっています。

カモシカの生息する地域では、毎年、各都県でカモシカの生息について調査が行われています。この調査は 2 年間特別調査を、6 年間通常調査を行い、計 8 年周期で繰り返します。当県では、既に 5 回目の特別調査が終了しており、今年度は通常調査の 5 年目です。通常調査は指導員に指導を受けながら、地元の山やカモシカに詳しい方々に調査員を委嘱して行っています。現地調査や聞き取り調査を行って、カモシカの生息状況や生息環境の変化などを調べています。



### 関東山地カモシカ保護地域

（“2018 関東山地カモシカ保護地域特別調査報告書 平成 28・29 年度”より抜粋）

これらの調査の結果、関東山地カモシカ保護地域ではカモシカの生息密度が低く、1 km<sup>2</sup>あたり 0.7 頭前後で生息密度はほぼ横ばいであり、分布域が拡大傾向にあることなどがわかりました。

県内でも、最近の傾向としては、カモシカは以前より標高の低い場所で目撃されることが増えています。今まで目撃されなかった越生町や日高市などで目撃数が増え、飯能市でも低標高地の民家や線路近くにも出現するようになりました。

この要因として、山地ではシカの個体数の増加に伴い林床の植物が食べられてしまい、カモシカの餌が不足したためと考えられています。カモシカは餌を求めて低標高の地域へ進出しているようです。

なお、カモシカの体色は個体差が大きく、雪が降る東北などでは白っぽい体色が多く、西日本ほど黒っぽい体色が多い傾向があると考えられています。

実際に、埼玉のカモシカは、東北の個体よりも体色が黒っぽい個体が多いようです。カモシカは単独行動をするので、後ろから見て、角が見えない場合、ツキノワグマにも似て見えます。そんな時はドキッとしてしまいます。

カモシカは、猟師さん達によると、油断ならない相手で、猟犬がシカと間違えて追いかけてしまうと、追い込まれたふりをして、崖に誘い込み、角で猟犬をすくい投げて崖下へ落としてしまうそうです。

また、カモシカを目撃した時、こちらをじーっと見たまま、動かないことがあります。近づくと逃げますが、何故、このような行動をとるのかはわかっていません。しかし、この習性は写真を撮影できる機会でもあります。そのため、カモシカは比較的、写真に基づく同定や生息情報の収集がしやすいという面もあります。また、斜面で座っている個体を筆者が見つけた時は、食べた餌を反芻していて、口をモゴモゴ動かしながらまったりと陽に当たっていました。なんて平和な動物だろうと羨ましく思いました。

当館では、右のチラシを配布し、カモシカを目撃情報を集めております。皆様も目撃された際には、是非、当館へ御一報いただけましたら幸いです。

(おくむら みほこ・主任学芸員)

参考文献

文化庁文化財部記念物課, 2013. 特別天然記念物カモシカとその保護地域の管理について  
 文化庁文化財第二課, 2022. カモシカ保護管理マニュアル(改訂版)  
 群馬県教育委員会・埼玉県教育委員会・東京都教育委員会・山梨県教育委員会・長野県教育委員会, 2018. 関東山地カモシカ保護地域特別調査報告書 平成 28・29 年度  
 株式会社小学館, 2002. 小学館の図鑑 NEO ①動物  
 環境省, 2010. 特定鳥獣保護管理計画作成のためのガイドライン(カモシカ編)

### 特別天然記念物カモシカ

～近年の調査結果と目撃情報提供のお願い～

**ニホンカモシカとは？**  
 本州、四国、九州の山地に生息するウシ科カモシカ属の日本固有種です。その学術的価値から、昭和9年に国の天然記念物に、昭和30年には特別天然記念物に指定され、全国各地に保護地域が定められています。

**カモシカの調査と保護**  
 保護地域では、カモシカの生息状況や生息環境のモニタリングが毎年行われています(通常調査)。また、8年に一度、2か年で本格的な調査が行われ、分布や生息密度、餌資源となる植生等が確認されます(特別調査)。これらの調査結果は、カモシカ個体群の保全に役立てられます。

**平成 28・29 年度特別調査**  
 埼玉県(秩父市・飯能市)の一部を含む関東山地保護地域の1都4県では、平成28・29年度に特別調査を行いました。  
 その結果、前回20・21年度の調査結果と比べ、カモシカはより広い範囲で確認されるようになりました。生息密度は横ばい〜微増でしたが全国平均を大きく下回っており、引き続き密度の低い貴重な生息地となっています。  
 近年の傾向として、本来の生息地である山岳地帯から離れた、低標高地や人里などの保護地域外でも目撃されるようになってきました。カモシカの分布域に変化が見られるため、今後はより多くの情報の集積が望まれます。



**ニホンカモシカ**  
 大きさ: 1～1.2m  
 重さ: 30～40kg

へこちらは誤認しやすいニホンジカ

**もしカモシカを見かけたら…**  
 埼玉県立自然の博物館では、埼玉県内でのカモシカを目撃情報を集めています。目撃した方は、裏面に記入し、自然の博物館までご連絡いただけますようお願いいたします。

埼玉県教育委員会 平成30年3月発行  
 問い合わせ: 埼玉県立自然の博物館 0494-66-0407

チラシ表

【目撃日時】 年 月 日 時 分

【目撃頭数】 頭 (うち成獣 頭、幼獣 頭)

【目撃場所】 住所: \_\_\_\_\_  
 標高: 約 \_\_\_\_\_ m  
 座標・付近の目印など: \_\_\_\_\_

※わかる範囲で記入ください。

FAX 0494-69-1002  
 E-mail: f66d044@pref.saitama.lg.jp

〒369-1305  
 長瀬町長瀬 1417-1  
 埼玉県立自然の博物館 宛

カモシカを目撃した場所を、地図中に X印などで御記入ください。



【山の目的】 林業・登山・釣り・狩猟・その他 ( )  
 【記入者氏名 (任意)】 \_\_\_\_\_ 【連絡先 (任意)】 \_\_\_\_\_

チラシ裏